

## ペスタロッチー教育賞 受賞者紹介

和光学園 学園長

### 丸木政臣

丸木政臣氏は、1924年熊本県に生まれ、熊本師範学校を卒業、学徒出陣で陸軍に入り、1945年8月15日を鹿児島県の特攻隊基地知覧の近く吹上浜で迎えた。敗戦の衝撃でしばらく農業に従事したが、1年後恩師と母のすすめで熊本師範附属国民学校に就職、戦後の民主教育を模索する中でペスタロッチーの教育精神と出会った。

1947年4月、新憲法、教育基本法にもとづく新しい教育を実践現場で探究し、特に新生「社会科」の教育に力をそそぎ、カリキュラムの開発編成をめざす運動に参加、1953年には熊本を襲った台風の被害を中学生とともに調査学習した実践記録「水害と市政」において「問題解決学習」の典型的実践として注目をあび、高く評価された。

1955年4月、乞われて東京の私立和光学園に転任する。この学園は、沢柳政太郎が創立した成城学園から1933年分離独立した新教育学校であり、「児童天賦の性情能力」を遺憾なく発揮させるという精神を受け継いでいた。戦後は経営的に苦境にあったが、「コア・カリキュラム連盟（後に「日本生活教育連盟」）」の実験学校として再生し、戦後教育研究運動の拠点となっていた。丸木氏は、この学園の中心的リーダーとなり、和光大学の創設にも尽力する。また、ペスタロッチーの教育思想を歴史的源流とする「生活教育」を教育改革、学校改革の基本理念として、和光学園の歩みを導いてきた。1969年からは、学園の二つの幼稚園、小学校、中学校、高等学校の校長として、文字通り学園を代表する指導的役割を果たし、現在は学園長の職にある。

あわせて、日本生活教育連盟の委員長でもある。氏の教育理念、学校改革への熱い思いは『21世紀の学校』（星林社1998年）、『あの「青空」をふたたび』（岩波書店1997年）、『わが教育の原点』（新日本出版社1996年）ほか、多くの著書からもうかがい知ることができる。

ペスタロッチーが、18世紀末、近代の入り口における人間的危機がもたらした教育の課題への挑戦者であったとすれば、丸木氏は、20世紀末がうみだした人間世界の荒廃に立ち向かった教育者であると言えることができる。両者は、ともに困難な状況におかれた子どもの現実を直視し、「生活が陶冶する」という生活教育の立場から教育改革に取り組んだのである。さらに、ペスタロッチーがそうであったように、丸木氏も自らの教育理念を実践の場に移し、学校（和光学園）の教育と経営に粉骨砕身してきた。そこには、多くの困難に遭遇しながらも、常に子どもを主人公とした学校を創造するという理想をめざし、求道する氏の姿があり、それはまさにシュタンツ孤児院やイヴェルドン学園におけるペスタロッチーの姿と重なりあうものである。

丸木政臣氏の活動は、戦後から現在にいたるまで、困難な教育状況下におかれた子どもたちに向き合い、揺るぎない教育理念を掲げて、真摯な実践を積み重ねてきたものである。ここにはまさにペスタロッチーの精神と「教育の原点」が体現されている。丸木政臣氏の長年にわたる多大な功績に対し、第9回ペスタロッチー教育賞を贈呈し、高く顕彰したい。

（受賞者の紹介にあたり、中野光氏による「推薦文」、並びに岩波ブックレット『あの「青空」をふたたび』を多く引用させていただきました。ここに記して感謝申し上げます。）